

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
国語表現	農業食品科 グリーン環境科 社会福祉科・3年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 国語表現（大修館書店） <input type="checkbox"/> 副教材 国語表現 基礎練習ノート（大修館書店） <input type="checkbox"/> 問題集 現代の語彙力向上の壺（尚文出版）
------	---

科目の目標		
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準 [表現力を支える知識を身に付けることができた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①書く力②話す・聞く力 ③言語運用力④情報活用力 ⑤情報収集の方法それぞれについて課題に取り組み、正確に記述しながら理解を深めている。 ・ 言葉によって表現するために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 	<p>B 評価の規準 [知識を生かし、自ら考えることができた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作文やスピーチ原稿、手紙、レポート等を身に付けた知識を生かして考えようとしている。 <p>[考えたことを表現することができた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識を生かして自ら考えたことを書いたり、書いたものを発表したりすることができている。 <p>[話すこと・聞くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や場に応じて情報を収集、整理して、内容を検討している。 ・ 相手の反応や場の状況に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 ・ 仲間の話をしっかりと聞き、仲間と協力して取り組もうとする姿が見られる。 	<p>B 評価の規準 [主体的・意欲的に学習に取り組むことができた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国語表現の授業を通して自己の表現力を鍛え、進路活動や将来に生かす」という目標を持ち、学習内容に興味を持って意欲的に取り組む姿が見られる。 ・ 課題を提出日までに不備のない状態で提出している。 ・ 学習や活動に積極的に取り組み、仲間との対話を通して共に表現力を高め合おうとする姿が見られる。
<p>※ 「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	言葉と出会う	2	・言葉と表記 ・整った文を書く
		2	・相手に応じた言葉遣い
		1	・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方
5	伝える、伝え合う	5	・自己紹介ゲーム ・言葉のストレッチ体操
		5	・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書こう
6	自己PRと面接	3	・自分を見つめて
		3	・効果的な自己PR
		4	・将来の自分を考えよう
7		3	・志望理由を書こう ・自己推薦書や学修計画書を書く
3		・面接にチャレンジ	
8		2	・グループディスカッションをしよう
9	小論文・レポート入門	6	・小論文とは何か ・反論を想定して書く
		6	・レポートを書く ・論文を書くために
10	メディアを駆使する	6	・通信文を書き分ける
6		・電話を使いこなす	
11		6	・電子メールを活用しよう ・ネット社会との付き合い方 ・ネットを活用した情報収集
	4	・メディアと情報	
12	会話・議論・発表	3	・相手や場面に応じた会話
		2	・建設的な議論の進め方
		3	・スピーチをしよう
1		3	・プレゼンテーションの工夫

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
歴史総合	農業食品科3年 グリーン環境科3年 社会福祉科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 詳述歴史総合（実教出版） <input type="checkbox"/> ノート 詳述歴史総合マイノート（実教出版）
------	---

科目の目標		
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>近現代史の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそとの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】 B 歴史的事象に関する用語を知っている。 ・重要語句や重要事項を答えたり、その内容を説明したりすることができる。 A 歴史的事象を概念として理解することができる。 ・習ったことを一般化できる形に抽象化して整理したり説明することができる。</p> <hr/> <p>【技能】 B 提示された資料から必要な情報を読み取ることができる。 ・提示された年表や地図その他の図表、史料などの資料から、必要な情報を読み取ることができる。 A 適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。 ・年表や地図その他の図表、史料などから、適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。</p>	<p>【思考】 B 習った歴史的事象を他の事柄にあてはめることができる。 ・抽象化した既習事項と別の歴史的事象との構造的な共通点を見出すことができる。 A もとの事柄とあてはめた事柄とを比べることができる。 ・複数の事柄を、共通する構造で捉えて、さらなる共通点を推測したり時代や地域を含む様々な条件に起因する相違点などを挙げたりして整理することができる。</p> <hr/> <p>【判断】 B 歴史的事象に関する判断基準を把握できている。 ・その事柄に関する課題は何か、その課題に対して誰がどのような考え方を持っているかについて整理することができる。 A 歴史的事象について価値判断を行うことができる。 ・実際起きた出来事等が、誰にとってどのような意味があったのか、それぞれの立場から説明できる。</p> <hr/> <p>【表現】 B 歴史的事象について自分の考えを述べることができる。 ・習った内容を比較したり価値判断を行ったりしたことをもとにして自分の考えを述べることができる。 A 歴史的事象についての自分の考えを、適切な方法で表すことができる。 ・文章や年表、地図その他の図表などを用いて、他者に効果的に伝えることができる。</p>	<p>【自己調整学習・粘り強い取り組み（学習方法）】 B 学習の振り返りを行うことができる。 ・自らの学び方を振り返り、改善しようとすることができる。 A 振り返りをもとに、学び方を継続的に改善することができる。 ・自らの学び方を振り返り継続的に改善することができ、その成果が、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の成績にも表れている。</p> <hr/> <p>【自己調整学習・粘り強い取り組み（学習の深まり）】 B 自分で問いを立てることができる。 ・疑問に感じた点やさらに深めたい部分などを自分で見つけ、問いを立てることができる。 A 自分とのつながりや現代の諸問題を意識した問いを立てることができる。 ・歴史的事象と自分や現代の諸問題とのつながりに興味を向けることができ、それらを深めるための問いを立てることができる。</p>

学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	歴史の扉 第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	2 1 5	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化への問い ・ヨーロッパの海外進出と市民社会 ・清の繁栄 ・東アジア諸国間の貿易 ・江戸時代の日本の対外政策 ・江戸時代の社会と生活
5	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	7	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン ・ウィーン体制 ・19世紀のイギリスとフランス ・イタリア・ドイツの統一 ・東方問題と19世紀のロシア
6	第3章 アジアの変容と日本の近代化	7	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの発展と分裂 ・世界市場の形成 ・イスラーム世界の改革と再編 ・南アジア・東南アジアの改革と再編 ・アヘン戦争の衝撃 ・ゆらぐ幕藩体制 ・開国
7		6	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末政局と社会変動 ・新政府の成立と諸改革 ・富国強兵と文明開化 ・近代的な国際関係と国境・領土の画定 ・自由民権運動の高まり ・立憲国家の成立
9	第4章 帝国主義の時代	8	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義と世界分割 ・帝国主義期の欧米諸国 ・条約改正 ・日清戦争 ・日露戦争から韓国併合へ ・日本の産業革命と社会問題 ・アジア諸民族の独立運動・立憲運動 ・近代化と現代的な諸課題

10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	6	<ul style="list-style-type: none"> ・大衆化への問い ・緊迫する国際関係 ・第一次世界大戦 ・ロシア革命とシベリア出兵 ・大戦景気と米騒動 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・西アジア・南アジアの民族運動
11	第6章 経済危機と第二次世界大戦	6	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア・東南アジアの民族運動 ・戦間期の欧米 ・ひろがる社会運動と普通選挙の実現 ・政党内閣の時代 ・世界恐慌 ・ファシズムの時代
12		4	<ul style="list-style-type: none"> ・満州事変と軍部の台頭 ・日中戦争 ・第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 ・戦争と民衆 ・敗戦
1		6	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連合と戦後世界 ・戦後と占領の始まり ・民主化と日本国憲法 ・冷戦の開始 ・朝鮮戦争と日本 ・国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題
2	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界	7	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化への問い ・冷戦対立の推移 ・植民地の独立と第三世界の出現 ・米ソ両陣営の動揺 ・日本の国際社会復帰と高度経済成長 ・石油危機と世界経済 ・緊張緩和から冷戦の終結へ
3	第9章 グローバル化と現代世界	7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協力の進展 ・日本の経済大国化 ・冷戦体制の終結 ・地域紛争と世界経済 ・グローバルな認識へ ・現代的な諸課題の形成と展望

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
総合数学演習	社会福祉科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> ポイントノート数学I（数研出版） <input type="checkbox"/> ポイントノート数学A（数研出版）
------	--

科目の目標		
<p>(1) 数学I分野では、1年次に学習した内容を振り返り、就職試験・進学学試験に対応できるように基礎学力を向上できる。</p> <p>(2) 数学A分野では、2年次に学習した内容を振り返り、就職試験・進学学試験に対応できるように基礎学力を向上できる。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。2次の乗法公式及び因数分解の公式を理解できる。不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。</p> <p>2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解できる。2次関数の最大値や最小値を求めることができる。2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。</p> <p>鋭角の三角比の意味と相互関係について理解できる。三角比を鈍角まで拡張する意義を</p>	<p>問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。</p> <p>2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察することができる。2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決することができる。</p> <p>図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式を使って導くことができる。図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象</p>	<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。</p> <p>人間の活動を理解するために、数学を活用しようとする。</p>

<p>理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。正弦定理や余弦定理について三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。</p> <p>集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。</p> <p>整数に関する概念などと人間の活動の関わりについて、数学的な見方で理解することができる。</p>	<p>や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決することができる。</p> <p>集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。</p> <p>人間の活動について、整数の性質で学んできたことをもとに考察しようとする。</p>	
--	---	--

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を暗記するのではなく、図形や文字などから概念として理解できる。 ・練習問題などの演習に自ら取り組み、立式から計算まで完結して解答できる。 	<p>B 評価の規準</p> <p>[よく考え、意見を持ち、説明できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な問題にも学習した知識を組み合わせ、論理的に考察して解法を表現できる。 	<p>B 評価の規準</p> <p>[粘り強さ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に計画的に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、短期・中期の課題を解決していくことができる。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	就職試験対策・基礎学力向上対策	3	・問題演習
5	就職試験対策・基礎学力向上対策	5	・問題演習
6	就職試験対策・基礎学力向上対策	7	・問題演習
7	就職試験対策・基礎学力向上対策	8	・問題演習
8	図形の性質	2	・平面図形の基本
9	図形の性質	5	・角の二等分線と線分の比 ・三角形の外心・内心・重心 ・円周角の定理
10	図形の性質	5	・円に内接する四角形 ・円の接線 ・方べきの定理
11	数学と人間の活動	7	・約数と倍数 ・ユークリッドの互除法
12	数学と人間の活動	7	・方程式を満たす整数 ・2進法
1	数学と人間の活動	2	・分数と小数
2			
3			

令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
生物基礎	農業食品科、 グリーン環境科2年 社会福祉科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 i版 生物基礎（啓林館）
------	---

科目の目標		
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>日常生活や社会との関連を計りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p>	<p>生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育う。</p>	<p>生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・学習活動に真剣に取り組 み、確認テスト等で振り返 ることができている。 ・観察及び実験の方法を正し く理解し、結果をまとめるこ とができる。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説 明できた] ・学習活動に真剣に取り組 み、仲間と協力して考え、提 案や発表ができる。 ・観察及び実験に仲間と協 力して取り組み、自分や班 の考えを記述できている。	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習課題に自ら取り組み、内容も学 習内容に沿っている。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分な りのまとめをしたりするなど、独自の工 夫及び記述がある。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に 迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主 に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4	生物の特徴	6	生物の共通性と多様性
5		7	生物とエネルギー
6	遺伝子とその働き	7	遺伝情報とDNA
7		8	遺伝情報とタンパク質の合成
8			
9	神経系と内分泌系による調節	5	情報の伝達
10		7	体内環境の維持の仕組み
11	免疫	8	免疫の働き
12	植生と遷移	8	植生と遷移
1	生態系とその保全	5	生態系と生物の多様性
2		5	生態系のバランスと保全
3		2	生態系のバランスと保全

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
体育	3年 AGW 科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
-------------	--

科目の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解しようとしている。 ・課題解決法、練習法、試合法を理解しようとしている。	B 評価の規準 ・毎時の振り返りシートに反省を記入し、自己評価をしようとしている。 ・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。 ・役割を積極的に引き受け事故の責任を果たそうとしている。	B 評価の規準 ・準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。 ・活動の目的を理解し、実践しようとしている。 ・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 ・授業に積極的に参加しようとしている。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、体育理論で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体づくり運動	6 3	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技（選択①）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
6	球技（選択①）	6	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン
7	球技（選択②） 体育理論	6 2	□バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール 生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造
8	球技（選択②）	2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
9	球技（選択②） 球技（選択③） 体育理論	4 4 2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール

			生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造
10	球技（選択③）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
11	陸上競技（長距離走）	8	20分間走・4キロ走
12	陸上競技		20分間走・4キロ走
1	球技（選択④） 体育理論	6	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
		2	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
総合英語演習	社会福祉科 保育福祉類型・3年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> raise 1 英語総合演習（第一学習社）
------	--

科目の目標		
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの Lesson において、既習の文法事項の表現に注意しながら、内容を理解する技能を身に付けている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝える技能を身に付けている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いたりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章についての概要や要点、必要な情報を、聞き取って捉えている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いて伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章についての概要や要点、必要な情報を、主体的に聞き取って捉えようとしている。 ・理解を深めるために、文章の趣旨を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について主体的に詳しく話して伝えようとしている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、主体的に詳しく書いて伝えようとしている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [文法理解] ・文法について理解しており、プリントやノート等に適切にまとめている。 [話すこと、書くこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり、書いたりして伝える技能を身につけている。	B 評価の規準 [話すこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に伝えたり、話したりしている。 [書くこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に書いて伝えている。	B 評価の規準 [書くこと] ・本文の内容について、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞き、聞いた内容をプリントやノート等に適切にまとめている。 [読むこと、話すこと] ・本文の内容について、聞き手に配慮しながら、主体的に書かれていることについて読んだり、話したりしている ※授業への不参加や授業中の居眠りが目立ったり、私語が多く周囲の学習の妨げになる場合はC評価となります。
※「知識・技能」は、定期考査や単元テストで主に判断します。 ※「思考・判断・表現」は、定期考査やスピーキングテスト等で主に判断します。		
成果や内容が特に顕著な場合は A評価 とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	授業オリエンテーション		授業の進め方、学習方法についての説明 年間学習指導計画及び評価基準の説明
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ● A L Tとのティームティーチングを実施（月に2～3時間程度） ● 個別にスピーキングテストを実施（年2回、1・2学期） </div>			
	Lesson 1 文の種類① 「アメリカのご近所事情」		基本時制を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
5	Lesson 2 文の種類② 「hot と cold についてのなぞかけ」		疑問文を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
6	Lesson 3 文型① 「コカ・コーラ秘話」		第1・2文型を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
7	Lesson 4 文型② 「スミスさんの病」		第3・4・5文型を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。

	Lesson 5 時制① 「石を投げるな」	過去形・未来形を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。 現在・過去進行形を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
8		
9	Lesson 6 時制② 「あなたの声の聞こえ方」	現在完了形を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	Lesson 7 助動詞① 「紙の家」	助動詞 can・may を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	Lesson 8 助動詞② 「ボリビアにある風変わりなホテル」	助動詞 must・have to・should を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
10	Lesson 9 受動態 「長さの単位」	基本的な受動態を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	Lesson 10 不定詞① 「洞窟とイヌと少年たち」	不定詞の名詞用法・形容詞用法・副詞用法を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
11	Lesson 11 不定詞② 「あいさつとは何か」	S+V+O+to 不定詞及び、疑問詞+to 不定詞を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	Lesson 12 動名詞 「記憶力」	動名詞の基本的用法を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
12	Lesson 13 分詞 「旅先で得るもの」	分詞の修飾について理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	Lesson 14 比較 「ウッドさんと鳥」	比較級・最上級の用法を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
1	Lesson 15 関係代名詞 「ある生き物たちの驚異的な能力」	関係代名詞の用法を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
2		
3		

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
生物活用	社会福祉科（保育福祉類型）・3年	2	

使用教材	□生物活用（実教出版）
------	-------------

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物活用について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	生物活用に関する課題を発見し、農業や農関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜や草花の生産や産業の特徴を理解することができた。 ・野菜や草花の栽培技術を身に付けることができた。 	<p>B 評価の規準</p> <p>[よく考え・意見を持ち・表現することができた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜や草花の生産に関する課題に気づき、解決するために自らの考えを説明できた。 ・仲間と協力して行う課題に対して、仲間の意見を聞き、まとめることができた。 	<p>B 評価の規準</p> <p>[積極的に行動できた・協働することができた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜や草花に対して興味・関心を持ち、学習や実習に主体的・意欲的に取り組むことができた。 ・学習活動に関して、仲間と協働的に取り組み、周りを見て行動することができた。
<p>※ 定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	生物活用の意義と役割	2	生物活用とは何か 生物活用の大切さ
		2	私たちの暮らしと生物活用 【栽培プロジェクト①】夏花壇用草花の播種
5	生物活用とプロジェクト学習	2	プロジェクト学習とは プロジェクトの進め方 【栽培プロジェクト①】夏花壇用草花の管理
	植物・園芸と人間生活	2	私たちの暮らしと園芸 植物・園芸の活用 植物を扱う際の留意点 【栽培プロジェクト①】夏花壇用草花の管理
	野菜・ハーブの栽培と活用	2	野菜・ハーブの活用…コンテナ栽培とは 【栽培プロジェクト②】夏野菜の栽培と管理
6	草花の栽培と活用	2	草花の種類と特性 花壇の活用と管理 【栽培プロジェクト①】夏花壇のデザイン・定植
		2	園芸デザイン 【栽培プロジェクト②】夏野菜の栽培と管理
6	野菜・ハーブの栽培と活用	2	野菜の種類と特性 野菜の栽培

			【栽培プロジェクト②】夏野菜の栽培と管理
7	野菜・ハーブの栽培と活用	2	ハーブの種類と特性 ハーブの栽培 【栽培プロジェクト③】コンパニオンプランツ
		2	ハーブの利用 花壇の活用と管理（切り戻し等） 【栽培プロジェクト①】夏花壇・野菜の片づけ
8	生物を活用した療法	2	生物を活用した療法とは 植物を治療に活用する…ハーブの活用 【栽培プロジェクト③】秋冬野菜栽培の計画
9	草花の栽培と活用	2	草花の種類と特性 花壇の活用と管理 【栽培プロジェクト④】秋春花壇の計画・播種
	野菜・ハーブの栽培と活用	2	キッチンガーデン 【栽培プロジェクト③】秋冬野菜の栽培と管理
	草花の栽培と活用	2	室内園芸装飾 【栽培プロジェクト⑤】観葉植物の繁殖と栽培
10	草花の栽培と活用	2	地域緑化、都市緑化 【栽培プロジェクト③】秋冬野菜の栽培と管理 【栽培プロジェクト④】秋春花壇の栽培と管理
	生物活用の実践	2	交流活動の大切さ 交流活動の心がまえ 【栽培プロジェクト④】秋春花壇の栽培と管理 【栽培プロジェクト⑤】観葉植物の栽培と管理
11	交流活動の実際	2	交流活動の実施の流れ 対象者の理解 活動計画の立案・実施 【交流活動】交流活動の計画・交渉
	野菜・ハーブの栽培と活用 草花の栽培と活用	2	【栽培プロジェクト③】秋冬野菜の栽培と管理 【栽培プロジェクト④】秋春花壇の栽培と管理
	交流活動の実際	2	【交流活動】交流活動の実際
12	交流活動の実際	2	活動のまとめ 【交流活動】交流活動のまとめ（御礼状書き等）
	野菜・ハーブの栽培と活用	2	2学期のまとめ 【栽培プロジェクト③】片付け等
1	園芸療法とは	2	園芸療法とは 世界や日本における園芸療法の実際

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
器楽	社会福祉科2、3年 保育福祉類型	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 高校生の歌集 <input type="checkbox"/> ハノン
------	---

科目の目標		
音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、器楽・創作で表している。	B 評価の規準 [自ら表現意図を持っている] ・自己のイメージをもって器楽表現ができています。	B 評価の規準 [主体的・協働的] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、発表ができる。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、実技試験で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ピアノ実技 歌 （課題曲・自由曲）		課題曲・自由曲の譜読み 歌の練習
5			
6			
7			
8			
9	ピアノ実技 歌 （課題曲・自由曲）		課題曲・自由曲の譜読み 歌の練習
10			

11	ピアノ実技 歌		課題曲・自由曲の譜読み 歌の練習
12	(課題曲・自由曲)		
1	ピアノ実技 歌		課題曲・自由曲の譜読み 歌の練習
2	(課題曲・自由曲)		
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
課題研究	W科 (保育福祉類型)・3年	2	

使用教材	自分のテーマに応じた題材を各自で準備する
------	----------------------

科目の目標		
<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [取り組みの内容がわかる] ・何をどう取り組むべきか理解している。 ・研究に関わる知識や技能が身に付いており、研究に活かされている。	B 評価の規準 [よく考え、説明できた] ・課題を設定し課題解決までの道筋を立てて考えることができている ・課題解決にあたり、資料やグラフを読み取り情報を活用し、自分の言葉でわかりやすく表現できている	B 評価の規準 [研究に責任を持ち、検証・改善ができた] ・意欲を持ち主体的に取り組んでいる。 ・自分なりの視点や見通しを持って、課題を考察している。 ・定期的に振り返りを行うことにより研究のプロセスを客観視し、検証・改善、軌道修正を行っている。
※毎回の記録ファイル、実習製作、口頭試問、発表会、課題研究のまとめ用紙等で評価。		
[A 評価] ・研究に関わる知識・技術が向上し、研究活動をより深化させることができた。 ・口頭試問や発表、展示作品において、研究の取り組みの状況が的確に示されている。 ・自ら課題を設定し、課題解決に向けて試行錯誤しながら研究に取り組んでいる。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	テーマ設定 研究活動	1 1 2	テーマ設定 年間計画作成 研究活動
5	(保育園実習・校外)	8	保育園実習との連携を検討
6			(保育実習における検証)
7	1学期のまとめ	4	保育実習の振り返り 口頭試問
8	(家庭学習)		(自主研修)
9	研究活動	8	研究活動
10	2学期のまとめ	8	文化祭展示準備
11		8	研究のまとめ
12		6	口頭試問 課題研究発表会
1	課題研究発表会	2	課題研究のまとめ

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
生活産業情報	W科（保育類型）・3年	2	

使用教材	□生活産業情報（実教出版）
------	---------------

科目の目標		
<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について理解し、タイピング技術や各種アプリケーション利用の技術を身に付けた。	B 評価の規準 生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について理解し、関連する技術を身に付けた。	B 評価の規準 様々な事例をもと自分に置き換えて考え、生活の質の向上に取り組む態度が身についた ・定期考査や小テストのやり直しを通して、自らの課題に気づき改善しようとした。
[評価物] 定期考査、学習プリント、発表、実技試験		[評価物] ・提出物（提出状況）
[A 評価] ・実習に率先して取り組み、他の模範となった。 ・学んだことを生活に関連した様々な分野で利用することができた。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	情報化の進展と生活産業	6	・情報化の進展と社会
5 6	各種アプリケーションの基本操作 ビジネス文書実務検定に向けて	10	・文書作成ソフトの利用 ・ビジネス文書実務検定過去問練習
7	ビジネス文書実務検定に向けて 各種アプリケーションの基本操作	6	・ビジネス文書実務検定に挑戦 ・表計算ソフトの利用
8			
9	各種アプリケーションの基本操作	6	・プレゼンテーションソフトの利用
10	生活産業に関連した情報デザイン	6	・食生活関連分野での利用 ・衣生活関連分野での利用
11	生活産業に関連した情報デザイン	6	・住生活関連分野での利用 ・消費生活関連分野での利用
12	課題研究のまとめ	6	・課題研究発表会のためのスライド作り
1	情報モラルとセキュリティ	6	・情報モラルとマナー ・情報通信ネットワークの仕組みとセキュリティ
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
保育実践	W科 (保育福祉類型)・3年	2	

使用教材	□教科書 保育実践 (実教出版)
------	------------------

科目の目標		
<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p>	<p>保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p>	<p>保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・子供の発達を促す表現活動について理解し、子供に関わる技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [よく考え、自分の意見を説明できた] ・学習や実習内容を理解し、意見を出し合い、創意工夫しながら取り組むことができた。 ・状況に応じた言動ができた。	B 評価の規準 [粘り強く取り組んだ] ・忘れ物がなく、授業に真剣に取り組んだ。 ・苦手なことにも向上心を持って取り組んだ。 ・提出物を期限に遅れず提出できた。 ・実習活動に向けて広い視野を持ち前向きに取り組むことができた。
※定期考査、作品、学習プリント、発表、学習の記録		※学習プリント、実習の記録 学習、実習への取り組む姿勢
[A 評価] ・実習に率先して取り組み、他の模範となった。 ・子どもを取り巻く課題を意識するなど、広い視野と目的意識を持って学習に取り組んだ。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	保育に見る児童観	1	<ul style="list-style-type: none"> 大人の意のままになる存在 「子ども」の発見
	児童福祉の理念と法規・制度	1	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉の歴史 児童福祉の法律 児童福祉に関わる施設
5	子どもの文化の意義	1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの文化とは 子どもの文化の現状
	保育の活動計画と実習	3	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃ作成
	保育検定2級に挑戦しよう	4	<ul style="list-style-type: none"> 音楽・リズム表現 言語表現
6	保育実習	8	<ul style="list-style-type: none"> 事前指導 保育園、幼稚園実習 事後指導
7	子供の表現活動と保育 子供の表現活動の面白さ	1	<ul style="list-style-type: none"> 子供の発達と作る活動

7	造形表現活動	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達と描く活動 ・飾られたものを見て楽しむ活動
8	情報手段などを活用した活動 表現活動の実際	2	
9	子育て支援と保育 子供・子育ての問題	8	<ul style="list-style-type: none"> ・子供・子育ての現状 ・子育て支援の意義と役割 ・子育て相談の内容
10	第2章 子育て支援と保育 子供・子育ての問題	8	<ul style="list-style-type: none"> ・子供・子育ての現状 ・子育て支援の意義と役割 ・子育て相談の内容
11	子育て支援のための各種施設	8	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な子育て支援 ・幼稚園・保育所・認定こども園など保育の場での子育ての支援
12	子育て支援の実際	4	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な子育て支援の具体的事例 ・子育て支援の留意点—連携・協働— ・今後の子育て支援
1	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での保育学習のまとめ

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
服飾手芸	W科（保育類型）・3年	2	

使用教材	□改訂版 ゼロから始めるさいほうの基本 ボタンつけから、手作り小物&洋服まで（KADOKAWA ライフスタイル編集部）
------	---

科目の目標		
<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。</p>		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p>	<p>手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p>	<p>手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準 [わかった・できた] ・手芸に必要な知識や技術を理解し、身に付けることができた。 ・安全に配慮し、適切な道具の扱いができた。</p>	<p>B 評価の規準 [よく考え、自分の意見を説明できた] ・学習や実習内容を理解し、班で意見を出し合い、創意工夫しながら取り組むことができた。</p>	<p>B 評価の規準 [粘り強く取り組んだ] ・問いに対して積極的に発言した。 ・忘れ物がなく、授業に真剣に取り組んだ。 ・苦手なことにも向上心を持って取り組んだ。 ・提出物を期限内に提出できた。</p>
<p>定期考査、作品、学習プリント、発表、学習の記録、実技試験※定期考査</p>		<p>※学習プリント、実習の記録 学習、実習への取り組む姿勢</p>
<p>[A 評価] ・実習に率先して取り組み、他の模範となった。 ・学んだことや実習で身に付けたことを家庭等で実践できた。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	手縫いのおさらい	6	基本の縫い方
5	保育園実習に向けて	10	小物づくり 名札、マスコット、おもちゃ、 アップリケ
6	自分でできる縫い	8	ボタン、スナップつけ すそ上げ、ゼッケンつけ
7			
8			
9	刺しゅうで名前をつける	6	アウトラインステッチ チェーンステッチ バックステッチ
10	手縫いの小物	10	ランチ袋、テディベア、 くたくたワンちゃん
11	ミシン縫い	6	子どものギャザースカート
12	パッチワークの小物	5	余り布、はぎれの利用
1	1年のまとめ	1	
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
フードデザイン	W科 (保育類型)・3年	4	

使用教材	□教科書 フードデザイン (実教出版)
-------------	---------------------

科目の目標		
家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準 (毎日の学習場面での具体的な規準)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・豊かな食生活に必要な知識や技術を理解し、身に着けることができた。 ・安全に配慮し、適切な道具の扱いができた	B 評価の規準 [よく考え、自分の意見を説明できた] ・学習や実習内容を理解し、班で意見を出し合い、合理的に取り組むことができた。	B 評価の規準 [粘り強く取り組んだ] ・問いに対して積極的に発言した。 ・忘れ物がなく、授業に真剣に取り組んだ。 ・苦手なことにも向上心を持って取り組んだ ・提出物を期限に遅れず提出できた。
※定期考査、作品、学習プリント、発表、学習の記録、実技試験		※学習プリント、実習の記録 学習、実習への取り組む姿勢
[A 評価] ・実習に率先して取り組み、他の模範となった。 ・学んだことや実習で身に着けたことを家庭で実践できた。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	オリエンテーション	8	・検定内容、条件の確認
5	食物調理技術検定準1級について	12	・お弁当献立例実習
	食物調理技術検定準1級練習		・お弁当献立作成 ・献立表記入の仕方 ・お弁当献立の練習
6	(保育実習)		
7	食物調理技術検定準1級練習	8	・お弁当献立の練習 ・基礎知識(筆記試験対策) ・筆記・献立表作成試験受験 ・実技試験受検
8	食物調理技術検定準1級振り返り	2	・レポート
9	食品の特徴・表示・安全 調理実習	14	・食品の特徴と性質 ・日本料理
10	食品の特徴・表示・安全 調理実習	14	・食品の生産と流通 ・食品の選択と表示 ・食品の衛生と安全 ・中華料理
11	料理様式とテーブルコーディネート 調理実習	12	・テーブルコーディネート ・西洋料理
12	料理様式とテーブルコーディネート 調理実習	8	・日本の食文化 ・世界の食文化 ・饗応食・行事食
1	食育	4	食育の意義と推進活動
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
介護福祉基礎	社会福祉科3年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 介護福祉基礎（実教出版） <input type="checkbox"/> 見て覚える！国試ナビ（中央法規）
------	--

科目の目標		
<p>介護福祉士に求められる専門性の中から、介護現場におけるリスク管理や、感染症対策、ストレスマネジメントなどを学びながら、現代に求められる介護福祉士像を考え、介護福祉士としての専門性と意識を身に付けていく。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
尊厳を支える介護，自立に向けた支援などについて理解するとともに，関連する技術を身に付けること	介護に関する意義と役割，地域における生活の継続性と介護などについての課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること	介護に関する意義と役割，介護の必要性について自ら学び，主体的かつ協働的に取り組むこと

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・[知識・技能] ・介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解している。 [技能] ・関連する介護技術を身につけている。	B 評価の規準 [思考・判断] ・介護に関する諸問題を発見することができる。 [判断] ・福祉倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 [表現] ・自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。 [評価物] ・課題レポート内容 ・グループワーク	B 評価の規準 [主体的] ・よりよい介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 ・問題解決に向けて、他者と協力し、取り組むことができる。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・課題レポート内容
※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価対象とする		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	介護における安全確保と事故対策	4	・介護におけるリスクマネジメント
5		10	・事故予防対策 ・身体拘束の禁止について ・防災対策
6	介護実習		
7	感染対策	10	・感染症の理解 ・感染症の予防対策 ・介護現場で出会うことの多い感染症
8			
9	介護従事者の健康管理	4	・健康管理の重要性 ・心の健康管理

			<ul style="list-style-type: none"> ・からだの健康管理
10		4	<ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生に関する知識 ・家族介護者の健康
11	介護福祉士国家試験対策 模擬試験		
12	介護福祉士国家試験対策 模擬試験		
1	介護福祉士国家試験		
2	家庭学習		
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
生活支援技術	社会福祉科3年	5	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 実教出版 生活支援技術 <input type="checkbox"/> 準教科書 中央法規 生活支援技術Ⅱ <input type="checkbox"/> 準教科書 中央法規 医療的ケア <input type="checkbox"/> 中央法規 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2024
------	--

科目の目標		
<p>自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自立生活の支援に必要な生活支援技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p>	<p>自立生活の支援に必要な生活支援技術に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p>	<p>健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、生活支援技術に基づいた自立生活の支援に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] 自立生活の支援について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけている。	B 評価の規準 [思考] 自立生活の支援の展開に関する課題を発見することができる。 [判断] 職業人に求められる倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 [表現] 自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。	B 評価の規準 [主体的] 健全で持続的な社会の構築をめざして自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。
※定期考査は実施しない。 単元テスト(実技・座学)にて評価		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画				
月	単元	時数	学習項目	
4	1. 2年の実技復習		<input type="checkbox"/> 清潔保持の技法 (実技・座学)	<input type="checkbox"/> 経管栄養の基礎知識
5			<input type="checkbox"/> 清潔保持の技法 (実技・座学) <input type="checkbox"/> 排泄の支援 (実技・座学)	<input type="checkbox"/> 経管栄養実施
6	介護実習【6月上旬～7月上旬】			
7	実習のまとめ		<input type="checkbox"/> 実習を振り返ろう!!	
8	国家試験対策		<input type="checkbox"/> 介護福祉士国家試験対策	
9	(1, 2, 3年の復習)			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
介護過程	社会福祉科3年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 介護過程（実教出版） <input type="checkbox"/> 見て覚える！国試ナビ（中央法規）
-------------	--

科目の目標		
人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解し、介護過程が展開できる能力と態度を着けていく。		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
サービス利用者に応じた適切な介護の提供には介護過程が必要なこと及び介護過程の一連の流れについて理解する。	将来の自立に向けた生活課題の解決及び目標の設定、サービス利用者の希望を尊重した介護計画の立案など介護過程の要素を理解させ、介護従事者として必要な視点と能力を身に付ける。	介護過程に関する意義と役割、介護過程の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・実践的・体験的な学習活動を通して、ICFの視点を活用した利用者の全体像の理解や利用者の望む生活の実現ができるよう、根拠に基づいた介護過程の展開を行うための知識・技術を習得する。 [評価物] ・演習プリント	B 評価の規準 [思考・判断・表現] ・事例演習やロールプレイなどを取り入れながら、コミュニケーション能力や観察力、判断力、思考力などを身に付ける。 [評価物] ・提出物 ・演習プリント	B 評価の規準 [学びに向かう力] ・個人ワーク、グループワークでは、ワークシートやアクションペーパーを活用しながら自身の課題を明確にし、その解決をはかる。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・演習プリント
※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技術」「思考・判断・表現」「学びに向かう力」を評価対象とする 特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	介護過程の意義と目的	10	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援と根拠に基づいた介護 介護過程の目的・基本視点
5	介護過程の展開	15	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント、情報収集 情報の解釈、関連づけ、統合化 課題の明確化 目標の設定
6	介護実習	30	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の実施・ 評価 モニタリング
7	介護過程の評価		
8	介護福祉士国家試験対策	85	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験対策
9	模擬試験		
10			
11			
12			
1	介護福祉士国家試験		
2	家庭学習		

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
介護総合演習	社会福祉科3年	1	

使用教材	<input type="checkbox"/> 介護総合演習・介護実習（実教出版）
------	--

科目の目標		
介護演習や事例研究などの学習をとおして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護実習が適切かつ総合的に展開できるよう、介護実習の意義や目的などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。	介護実習を通して、個人情報保護やリスクマネジメントなどについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。	地域での継続した生活を支援する介護実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。 [評価物] ・レポート ・介護過程事例報告会資料作成（計画・実施）	B 評価の規準 [思考] ・地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求している。 [判断] ・科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う [表現] ・自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。 [評価物] ・介護過程スライド作成（計画・作成物） ・レポート	B 評価の規準 [主体的] ・地域福祉や福祉社会の発展のために福祉の見方・考え方を働かせ、協働的に取り組むことができる。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・介護過程事例報告会（クラス内、学科【実習施設も含む】）
※定期考査は実施しない。 実施状況・提出物・作成物・報告会で「知識・技術」「思考・判断・表現」「学びに向かう力」を評価対象とする		
特に顕著な成績の場合、A 評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	2	・実習先概要調べ
5	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4	・実習ファイル作成 ・事例研究 ・オリエンテーション準備 ・自己紹介シート作成 ・オリエンテーション実施

6	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学 び	4	【介護実習】 ・日々の目標を立て、実践する ・実習記録物の記入 ・介護過程の実践
7	第3章	4	・施設お礼状作成
8	介護実習準備、実習中・実習後の学 び		・実習を振り返り、介護過程・介護技術に ついてまとめる
9	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	5	・実習で実践した介護計画をもとに、個別 的及び集団的な援助を考察 ・実習報告会準備
10	第4章 実習先の特徴、実習先での学び	5	・パワーポイントを活用した実習報告会の 準備
11	介護実習報告会	4	・3年間の学びを踏まえの実習報告（校 内）
12	介護過程事例報告会	4	・介護実習における事例をもとに、事例報 告会を開催し、社会福祉科1，2年生、実 習施設の指導者の方と事例研究を行う。
1			
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
介護実習	社会福祉学科 3年	1	

使用教材	<input type="checkbox"/> 介護総合演習・介護実習（中央法規）
------	--

科目の目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ化学手金根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	40%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。 [評価物] ・施設評価 ・自己評価 ・実習の記録物	B 評価の規準 [思考] ・地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求している。 [判断] ・科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う [表現] ・自分の考えを文章や発表を通して表現することができる。 [評価物] ・施設評価 ・自己評価 ・実習の記録物	B 評価の規準 [主体的] ・地域福祉や福祉社会の発展のために福祉の見方・考え方を働かせ、協働的に取り組むことができる。 [評価物] ・実習の記録物（提出状況） ・施設評価 ・自己評価
※定期考査は実施しない。実習の記録物、施設評価等実習に関する提出物が評価対象となる。		
特に A 評価。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	介護実習Ⅱ期【事前学習】		・介護実習の準備
5			
6	介護実習Ⅱ期【実習中】 6月上旬 (24日間)		・介護計画の立案 ・介護技術の実践 ・介護計画表の作成、実践 ・介護計画の評価
7			
8			
8	介護実習Ⅱ期【事後学習】 6月上旬 (24日間)		・介護実習のまとめ 介護過程事例発表会（12月予定） ・3年間の振り返り
9			
10			
11			
12			

1			
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
こころとからだの理解	社会福祉科 3年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> こころとからだの理解（実教出版） <input type="checkbox"/> こころとからだのしくみ（中央法規）
------	---

科目の目標		
人間のこころとからだのしくみの知識をもとに、疾病や障害について理解し介護現場や地域において、認知症や障害のある方に対する自立支援を提供できる資質・能力の育成を目指す。また日々の生活において活用することができ、将来の専門職に求められる力を身につけることを目指す。		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけるようにする。	自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、介護従事者としての倫理観を踏まえて、科学的な根拠にもとづいて創造的に解決する力を養う。	科学的根拠にもとづいた生活支援の実践をめざして自ら学び、こころとからだにもとづいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [知識・技術] ・自立支援に必要なこころとからだに関する知識を理解し、関連する技術を習得する。 [評価物] ・単元テスト ・小テスト	B 評価の規準 [思考・判断・表現] ・自立支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、科学的根拠にもとづいて解決する力を身につける。 [評価物] ・提出物 ・課題レポート	B 評価の規準 [学びに向かう力] ・授業中の個人やグループで行う活動において、記録や発言などに主体的に取り組む。 ・定期考査や小テストのやり直しを通して、自らの課題に気づき改善しようとする力を身につける。 [評価物] ・提出物（提出状況） ・課題レポート
※定期考査及び単元・小テスト 「知識・技術」「思考・判断・表現」を評価対象とする		
評価物の評価が満点の7割以上でA評価		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第3編 発達と老化の理解 第1章 人間の成長と発達	1 2	○発達 □ブロンフェンブレンナー、スキヤモン ○発達段階 □発達段階、フロイト、ピアジェ ○発達課題 □発達課題、ハヴィガースト、エリクソン
5	第3編 発達と老化の理解 第2章 老年期の理解と日常生活	1 6	○老年期の定義と特徴 □前期高齢者、後期高齢者、エイジズム ○加齢に伴う心身の変化の特徴 □生理的老化、病的老化、恒常性 ○加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響 □身体機能、認知・知的機能、精神的機能の変化 ○高齢者の心理 □WHO、サクセスフルエイジング
6	【介護実習】		24日間
7	【介護実習】		24日間
	第3編 発達と老化の理解 第3章 高齢者と健康	2 0	○高齢者の疾病と生活上の留意点 □生活不活発病、老年症候群、高齢者に多い疾患と症状 ○高齢者の健康の維持・増進 □健康寿命、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム ○保健・医療職との連携 □チームケア、社会福祉士及び介護福祉士法
8			
9	介護福祉士国家試験対策	2 0	○問題演習・解答解説
10	介護福祉士国家試験対策	2 0	○問題演習・解答解説
11	介護福祉士国家試験対策	1 6	○問題演習・解答解説
12	介護福祉士国家試験対策	2 0	○問題演習・解答解説
1	介護福祉士国家試験対策	1 6	○問題演習・解答解説
2	家庭学習		
3			